

会議結果報告書

平成29年9月29日

会議の名称	平成29年度第3回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	平成29年9月28日(木) 午後1時30分～3時30分
開催場所	志木市役所 4階 全員協議会室
出席委員	小山博久副会長、鎌田昌和委員、渡部日恵委員、谷合弘行委員、日東明子委員、前野房子委員、谷岡正吉委員、金敷禎子委員、赤羽尚子委員、小松順子委員、濱田好江委員、西和江委員、滝沢麻子委員、田代健委員、飯田順一委員 (計 15人)
欠席委員	山下和彦会長、清水正子委員、星野賢委員、新井弘委員、木下武三委員、川崎善一委員、大熊啓太委員 (計 7人)
説明員職氏名	今野参事兼健康政策課長、伴主査(健康政策課) 金澤健康増進センター所長、貫井健康増進センター主査 (計 4人)
議題	(1) 自殺対策計画策定に係る市民意識調査について (2) 次期いろは健康21プランの策定に係る市民健康意識調査について (3) その他
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	村上孝浩(健康福祉部長)、豊島俊二(健康福祉部次長)、今野美香(健康福祉部参事兼健康政策課長)、志田真由美(健康政策課)、伴恭臣(健康政策課)、金澤嘉子(健康増進センター所長)、貫井なおみ(健康増進センター) アドバイザー：川本静香氏 (立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員)

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 議 題

（1）自殺対策計画策定に係る市民意識調査について

事務局：本計画策定に向けたアドバイザーの川本先生を紹介した。

アドバイザー：我が国における自殺の状況と自殺対策の経緯について説明した。

事務局：志木市の自殺統計、計画のイメージを説明した。続いて、調査内容について説明した。

委 員：ゲートキーパーとはどのような役割なのか。

アドバイザー：自殺予防対策以外でも使われる用語だが、自分な身近な人の自殺のサインに気付き、関係機関につなぐなど、適切な対応を取れる人を指す。

委 員：ストレスの解消法、相談できる人の有無を聞いてみてはどうか。

事務局：ストレスに関する内容はいろはの調査項目に入っているが、自殺予防対策を検討する上で次につながる内容になると考えられるため、加えられるか検討する。

委 員：先進事例としてさいたま市があげられているが、計画の策定期間はいつからか。

事務局：第1次は平成21年からである。

委 員：埼玉県は自殺者は減っているのか。

事務局：平成21年の23.8%から平成27の15.6%に減っている。

委 員：今回の調査対象（4種類）はどのように決めたのか。

事務局：いろはの調査と同じにした。

委 員：埼玉県は中高生向けの調査は実施していたのか。

事務局：中高生向けも実施している。

委 員：問8は、単身の人にとって答えにくいのではないか。

事務局：捉え方は人による。問4で同居状況を聞いているため、その設問との関連性を考慮したい。

委 員：志木市の自殺統計で、平成28年が23人という結果が出ている。自殺した場所はどこなのか。

事務局：自宅で首を吊っている人が多い。人によっては、自分の誕生日や年度の変わり目の時期に自殺している傾向があった。うつ病を患っている人が多くみられた。

委員：この調査に対して、本当に追い詰められている人が回答するだろうか。元気な人しか答えないのであれば、回答者のバイアスが生じるのではないか。

事務局：中高生向けの調査票を校長先生に確認したところ、「自殺」という文言を入れた調査は難しいと言われている。そのため、現在、学校教員とともに良い表現方法等を模索している。また、そもそも鏡文で無理して回答しなくて良いという記述を加えている。回答者の身近な人で自殺しそうな人がいる可能性も考えられるので、そのような人に対してサポートできるような体制を整えて調査を実施する予定。

委員：調査票の一番はじめに、「あなたの心の状態はいかがですか。」という設問を入れてはどうか。その設問のみ回答してもらえないのではないか。

アドバイザー：今回の調査内容はデリケートなため、いきなり心身の状態を聞かないように配慮した方が良いと思う。また、その設問だけ回答してもらっても、フェイスシート of 情報を得ることができていないと、分析が難しくなってしまう。

委員：問 5 の選択肢に、マンションのエントランスやロビーを入れてみてはどうか。中高生が集まっている印象を持っている。問 8 について、もう少し質問事項を減らせないだろうか。アとオなどは融合できると考えられる。ノの質問は「はっきりした目標を持っていて努力していく気持ちがあるか」としてみてはどうか。問 17 は、「自殺」ではなく、「この場からいなくなりたい」という表現に変えると良い。P6 は難しいと思うが、p5 であればできると考える。

事務局：問 8 は先行研究を参考に配置した設問である。しかし、質問事項が多いことは確かなので、減らせないかどうか改めて精査する。また、学校の校長先生からも「自殺」の単語に対する抵抗は示されている。別の表現で聞けないか再度検討する。

委員：問 16 について、「身近な人」を中高生の友人だと想定すると、馴染みのない文言があると考えられる。今の若い子たちは、上から目線やはっきり伝える態度をとらない傾向にあるため、答えにくいだろう。中高生に馴染みのある表現に変えた方が良いと思う。

事務局：文言を検討したい。

委員：生きることを促進する要因を把握するために、現在何に打ち込んでいる時が楽しいかどうかを聞けると良いのではないか。

事務局：現状の調査項目をみると、マイナス要因の項目が多く設定していたので、

プラス要因の項目を設けられるように検討する。

委員：今回の調査対象について、特に②や③の男女比はどのようにとらえているのか。男性の方が自殺者が多いのであれば、男性の回答を多く欲しいと思う。

事務局：可能な限り、性別の偏りなく実施したい。

委員：無作為抽出とはどのように行うのか。

事務局：住民基本台帳に基づき、年齢・性別・住所で偏りなく、無作為に抽出する。また、同時期に実施する調査が複数ある場合、同じ対象者に送付されないよう配慮する。

事務局：従来の調査方法は郵送のみであったが、今回はQRコードを利用したウェブ調査を試みようと考えている。これについていかがか。

(委員から特に否定的な反応はなかった)

委員：問6の選択肢にサロンを入れていただきたい。

委員：問8について、一人暮らしの人がみると、さみしいと感じてしまうのではないか。

事務局：阻害要因だけではなく、生きることの促進要因を引き出す設問を検討する。

委員：調査票の最後のメッセージをもう少し前向きな内容に変更してみてはどうか。

事務局：前向きになるような表現に変えるように検討する。

(2) 次期いろは健康21プランの策定に係る市民健康意識調査について

事務局：意識調査について説明した。

委員：P9について、歯の調査項目に乳幼児と同じように仕上げ磨きなどを入れていただきたい。

事務局：検討する。

委員：全ての対象者の調査票について、「ゆっくり噛む」という設問は食育に関連する内容が入っているため、削除して良いと考える。

業者：食育と歯の内容で重複がみられるため、改めて精査したい。

委員：問28について、減塩に関する内容を入れてみてはどうか。他の設問項目に含まれているのであれば良い。

事務局：問11に含めている。

委員：問73、問74について○はいくつでもの方が良いと思う。睡眠中にいびきが止まりやすいか、呼吸が止まりやすいか。問48-1も○はいくつでも

に変えた方が良いと思う。問 49 の甘い飲み物を毎日の「毎日」を削除。
飲み方も一気に飲みするかどうか。問 47 について、歯周病ではなく、歯肉
炎の方が良いのではないか。

事務局：検討する。

3 その他

健康関連の調査票は次回の会議までに意見を出していただきたい。
次回の会議は 10 月 12 日（木）13:30 から市役所で行う。

4 閉会

以上